

作文指導副読本

『作文読本』の学習指導例

子どもの表現意欲・態度・能力を高めるために継続的な使用を

平成20年4月

作文読本編集委員会

〈1～6年生の6年間，地道に継続すると表現意欲が高まり，作文力が付きます〉

- 『作文読本』を有効に使用し，徳島県の小学生に今日的教育課題となっている表現意欲・態度・能力を育成するため，指導者向けに作成しました。
- 『作文読本』は1～6年生の発達段階や指導内容に合わせて系統的に編集され，しかも毎月投稿された魅力ある児童作文が10点前後，掲載されています。読むだけでも，子どもが作文に親しみ，確かで，豊かな表現を学ぶことができます。また，「練習」が3ページあり，イラストやキャラクターも工夫され，作文学習のポイントが身に付くように編集しています。
- 『作文読本』は，新学習指導要領・全国学力テスト等を考慮し，より使い易く改訂されています。
- 学校や学級の子どもの実態に応じて，多様な指導が可能な副読本です。解答も付いていて，自学自習もできるように編集されています。家庭学習にも使えます。
朱書きで指導者向けのポイントが随所に示されています。
- 採用校の指導者は，楽しく，短時間で作文学習に親しめるよう，様々な指導法を工夫され，地道な作文指導を展開されています。ここに示したのは，『作文読本』を副読本として採用していない，指導したことがないといった指導者のために，一つの学習指導例として示したものです。
『作文読本』の学習指導に，参考として手軽に活用してください。
- これまでの研究実践により，作文は表現力だけでなく，思考力や想像力などを鍛え，伸ばすことが分かっています。
授業時数の減少とともに教科書が薄くなり，作文単元も減っています。今広がりつつある採用校がもっと増え，一人でも多くの子どもたちが「作文がすき。作文っておもしろい。作文は役に立つ」と言えるよう，本県小学生の作文教育の一助となることを願っています。

指導例 1

1 単位時間で使用

- 1 「きょうも楽しく、力の付く作文の勉強をいっしょにしていこうね」と、毎回さりげなく作文の楽しさ、大切さを指導者が意識付ける。
- 2 児童作文のページをぱらぱらと見て、読んでみたい作文の題名を○で囲んで、3分で読みましょう。(指導者も読み浸る)(自分の読んだ作品には印を入れていく)
- 3 先生の読んだ作文は、こんなところがよく書けていました。(おもしろかったよ、など簡単に) みんなも今日のけいこ(練習)のページで力が付いたらすごいよね。
- 4 楽しく練習ページをいっしょに順に解き、子どもが○を付けたり朱書訂正したりする。板書(赤鉛筆)でポイントだけ押さえていく。(キーワードのフラッシュカード、例文、図など用意できたらしておく)(時間がかかりそうなときは軽重を付ける)
- 5 今日はこんな勉強ができたね。今度、みんなの日記や作文を読むのが楽しみです。(時間があれば、もう一つ好きな作文を自由に読むようにうながす)(事前に穴をあけておいて、『作文読本』を綴じていく方法もある)

指導例 2

1 単位時間で使用

- 1 きょうの練習はおもしろそうだね。もう自分の力でできると思います。今から15分で、できるだけ答えを書き込んでいきましょう。
できた人は、後ろの解答で答え合わせをしなさい。間違っていたら、どこが間違ったか確かめてから、解答を見て赤で書き写しましょう。
(分からなかったり質問があったりしたら、挙手するように指示。個別支援へ)
(支援が必要な児童に助言。難度が高いときはグループで協同学習もよい)
(早くできたら、後ろの作文を読む。できたら、好きな表現、いいなと思う言葉、文や文章にサイドラインを引きながら読むよう、常に指示しておく)
- 2 ここの問題は大切だから(難しかったようだから) みんなで見ましょう。(ポイントだけ10~15分程度、一斉学習指導する)
- 3 後は自由に読んでいいですよ。書ける子は、きょうの家庭学習で「みんなの声」に一言書いてきてみましょう。送ってみて、名前が載ったらラッキーですね。
(読んだ作文の題名に○囲み)(意欲があるならサイドラインを引きながら)

指導例 3

1 単位時間で使用

家庭学習で児童作文を読んで、好きな作文を一つ選んでくる。
(理由も作文の空欄にメモしてくる。)

- 1 No.〇〇にも書きたいことがよく伝わってくる作文がたくさんあったね。どれが気に入りましたか。
(何人かに理由も付けて発表させる。同じ作文を選んだ人を訪ねて共感する)
- 2 なるほど。では、今回の人気ベストワンはどの作文かな、題名を言うから手を挙げて。
(学級で選んだ作品をみんなで読む)
(その作文の文章技法、構成など叙述技能、内容などのよさに触れる→共感する)
ちなみに先生が選んだのは、「〇〇」でした。こんなところに心ひかれました。
またみんなも作文を書いて送ってみましょう。ここに名前が載ったら、少しずつ作文が好きになるかもしれないね。
- 3 それでは、あなたの作文の力を付ける「練習」にチャレンジしていきますか。
(「練習」の問題を個人やグループ、一斉に解いていく)

指導例 4

1 単位時間で使用

家庭学習で「練習」の問題を解いてくる。
答え合わせもして、お気に入り作文を一点選んでくる。

- 1 いちばん悩んだ問題、考えたところはどこでしたか。(自分で考えないで答えを丸写ししてきてないか、なんらかのチェックする)
- 2 みんなでくわしく勉強したいところ、よく分からなかったところはどこですか。
(学び方や問題の内容で質問できるような習慣を付けていく)
それでは、まず〇〇くんの言ったところから、くわしく勉強しましょう。
次に、□□さんが質問したところについて考えてみましょう。
(それぞれの疑問や要点を学習、指導する)
- 3 きょうは、家でがんばってきたから時間にゆとりがあります。一つお気に入りを選んできたので、「みんなの声」に短い手紙を書いてみますか。
(気に入った作文の作者あての手紙を2~3文でていねいに書く)
(時間があれば、同じ作文に書いたものを発表して、それぞれの受け止め方、感想や手紙内容の違いのおもしろさ、よさを理解する)
- 4 掲示したり投稿したりしておきますね。(ときどきは書いたものを生かすと意欲がわく)

指導例 5

朝の活動時間、読書タイム(10~15分)に使用

◇ 事前に配付しておき、朝登校してきたら自由に児童作文を読み始めるよう指示しておく。

- A 自分が読みたい作文を数点自由に選んで読む。→サイドラインを引いてもよい。
- B グループでいちばん初めの作文(あらかじめ決めた作文)から順に交替で読む。
→よいところ、好きな文や文章について簡単に話し合う。
- C 読む作文を指定しておき、表現の工夫が見られるところを見つける。内容と表現技法を結んで簡単に話し合う。

指導例 6

朝の活動時間、読書タイム(10~15分)に使用

◇ 前の黒板に「読む課題」を設定しておき、後で簡単に話し合う。

1 きょうは、次の課題で児童作文を読みましょう。

- 例
- ・「書き出しの工夫」が見られる作文はどれ？
 - ・「題名に工夫」がしてある作文はどれ？
 - ・「会話文を読むと、様子や気持ちがよく伝わってくる」作文は？
 - ・「五感を働かせて書いている文」のある作文は？
 - ・「書き出しと結びの文がひびき合っている(工夫している)」作文は？
 - ・「文章の組み立て」がいいなと思う作文は？

2 どれかの課題について、話し合って理解する。

指導例 7

国語の時間、朝の活動時間(10~15分)に使用

◇ 事前に原稿用紙と『作文読本』を配付しておく。

1 適切な作文を選んでおいて、原稿用紙に時間を決めて視写をするように指示する。

2 決めた時間がきたら鉛筆を置く。原稿用紙に書いた正解を配付し、赤で自己チェックする。句読点の打ち方、改行、「かぎ」の使い方と表記、心の中で思ったことの書き方など、「原稿用紙の正しい使い方、どれくらいの文章が書き写せるか」自己評価して自分の実態を知り、今後に生かす。(あとで回収し、教師評価をして返す)